日刊 動労千葉
80.6.7
NO.450
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

不当処分撤回まで 俺たちは闘いぬく！

職場からの報告

不当処分粉砕・反動局長秋山追放！ 長期強靭に闘いぬこう！

五月二日、全支部、全職場において、反処分・反動局長秋山追放の闘いが開始された。怒りの反処分第一波闘争は、減産・非協力の全面展開をもって、着実に国鉄当局を追いこんでいる。この選別的不当処分が、国鉄当局にとって「三十五万人体制」「五六・三燃料輸送期限切れ」へむけて、動労千葉の存在が唯一のネックであるがゆえの危機の表現である。それゆえに正当性、道理性のない処分である以上、われわれは、自信と確信をもって処分粉砕の勝利へむけてつき進むことができる。ここでは、反処分、怒りの反撃に総決起した、各支部の闘いの生の声を報告することとした。

千葉運転区

布施執行委員の出身支部である千葉運転区支部では、今時不当処分に対し全組合員が新たな怒りを国鉄当局に叩きつけ、全線区で快速列車の運休をふくむ強力な減産闘争を貫徹した。

五月二日減産B行動の初日、千葉運転区講習室に理不尽な処分に怒りを燃やした組合員八十名が結集し抗議集会を開催し、その後当局を追及した。

同日夕刻から行われた、局前集会には百名近い部隊をもって登場した。

闘いはいたる所で、強靭に続けられている。当局・公安はクタクタだ。

集会に参加した千葉運転区支部の組合員は、怒りを抑えてこう語った。

「同じ釜の飯を喰った。山へも一緒に行った。平気で理由もなく一人の人間を首切る当局とは許せない。減産を指令通り、いやそれ以上やりたい。今もやってきた。ただこれからは闘いしかない。力一杯怒りをぶつける。」

Oさん（38才電運士）

「抗議集会での布施君の決意を自分のものとして『処分のための処分』をはねかえしてゆきたい。さらに今回解雇なしと言っているが、昨年の中野書記長の解雇にしても全くデタラメ処分だ。闘いをとおして処分の不当性を徹底的に暴露してやる。」

Kさん（50才電運士）

津田沼

二日以降、三日間の国電の強力減産をもって多くの列車運休、遅れを現出する闘いを担った津田沼支部では、処分通告前段より、全組合員に対し反処分闘争の方向性・意義を対話オルグを通して徹底してゆく取組みを連日執行部を中心に行ってきた。

スローガン行動などを含め全組合員は、不当処分に対するいきどおりと闘う決意を自ら示している。

検修においても、組織的な闘いと、革マル・スパイ分子嶋田らに怒りが集中し反撃の体制は着実に大きく築かれている。

「一言でいえば、真に不当処分としか言いようがない。四・一五は現実に見ている前で行われたのによくデタラメなことが言えると思う。むしろ本部役員はとめに入ったではないか。

動労千葉破壊・弾圧に手をかした嶋田・斉藤（吉）らに心の底からの憎みを持つ。『本部』もここまで落ちたかと思うと、早く決別してよかったと思っている。あいつらは絶対に許さない。」

Sさん（33才電運士）

怒りのスローガン列車が今日も走る。房総全域・首都圏はあるが、5月31日は、特急「あずさ」は遠路長野まで「スローガン」を運んだのだ。

外房線（勝浦）

革マル 当局一体 となった 不当処分 粉砕！

全職場で燃え上る、怒りの闘い！

いま動労千葉の全支部・全職場で、怒りの炎は燃え拡がり闘いは大きく前進している。

勝浦では、連日のスローガン闘争を闘い、とりわけ年輩の組合員がマル生以上の攻撃としてうけとめ怒り心頭に達している。

館山でも、内房線の線路改善闘争と合わせて、減産が力強く闘われてきている。

検修最大拠点の幕張、新小岩、蘇我、木更津、そして成田でも、全組合員が怒りに燃えて不当処分をはねかえすため闘い続けている。

佐倉では、この反処分の闘いの中で団結署名を獲得するという、動労千葉の組織力・団結力の更なる強化がつくり出されている。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！